

Photo Gallery

有事に備えて 函南町水防訓練



▲各団体が協力して改良積み土のう工法を学びました

6月26日、肥田簡易グラウンドで「令和元年度函南町水防訓練」が行われ、消防団員、各地区役員、消防団サポート隊員、田方北消防署員、町議会議員、町建設事業防災協力会員、町職員など約230人が参加しました。

訓練では、土のう作りや改良積み土のう工法の実施、国土交通省の排水ポンプ車や照明車などの災害対策車両の展示、模擬火災中継放水訓練を行い、関係機関との連携体制を確認しました。

これからの出水期に備え、日頃の準備や有事の際の避難方法などの再確認をしましょう。

かなみ知恵の和館 入館者100万人達成

6月29日、かなみ知恵の和館が入館者100万人を達成し、記念式典が行われました。

記念すべき100万人の入館者は佐久間龍一さん一家（町内在住）で、関係者とくす玉を割り、町特産品の「函南西瓜」などを記念品が贈られました。

佐久間さんは「いつも来ているので驚いた。記念の日に立ち会えて嬉しい。これからもぜひ利用させてもらいたい」と喜んでいました。

同館は開館して約6年。子どもからお年寄りまでさまざまな世代に利用されています。



▲100万人目の入館者の佐久間さん一家

午後7時7分、全国250カ所で 水辺で一斉に乾杯



▲水辺で乾杯する参加者

7月5日、川の駅「伊豆ゲートウェイ函南」水辺広場で「水辺で乾杯2019in川の駅」が開催されました。

同イベントは、日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクトで、水辺を理解し親しみながら、賑わい・交流の創出を図るため全国250カ所で計画。

当日はあいにくの天気でしたが、函南町では23人が参加しました。参加者それぞれが青い物を身に付け、19時7分（午後7時7分）に水辺で乾杯をし交流を深めました。

団体・活動紹介

函南町文化協会

かなみ川柳倶楽部

榎本 政夫

新しい年の始まりと同時に、函南に新しい文芸団体が誕生しました。

川柳は俳句と同じ17文字でも、季語のような決まりごとはないので誰でも作れます。必要なのは文才よりも生活を楽しむ遊び心です。

「サラリーマン川柳」「シルバール川柳」「時事川柳」「ぼやき川柳」など、ジャンルは問いません。面白いこと、訴えたいこと、心にキョクときたことを、メモのように書き留めれば作品になります。

今は講師格の指導者はおりません。参加者皆が先生であり、皆が生徒です。それだけに、ワイワイと互いの作品に感想を述べ合いながらの研修です。一人一句ずつを選び、新聞などに投

- 川柳が冷めた夫婦を温める
- キョロキョロと探すメガネは顔の上
- 諭すよな母に似た声風の音

問合せ先／榎本 政夫 (090-5635-8840)

文芸散歩

「小さな観音様」

今井 久子

「マリア様がお寺に？」疑問と興味もわき、塚本にある興聖寺を訪ねた。伊豆八十八霊場の一つだそうだが、住職は静寂な空気の本堂を開けて下さった。「こちらです」本堂の左手一角に高さ17センチの仏像が金色の厨子の中に座っている。お顔はふっくらとした丸顔、着衣の金や赤の彩りや意匠、首飾り、台座、両側に置かれた舍利容器など聖母マリアの印象とは遠い。「よく見てごらんさい、十字架がみえるでしょう」確かに黒髪におかれた宝冠の装飾に十字がわかる。そして左手に抱かれた幼子がイエス・キリストとか。江戸時代キリスト教弾圧の中で、隠れキリシタンたちが、信仰を貫くために守ったというマリア観音。マリア像とはあまりに違う姿から、真実を隠した一途な親交の深さが伝わるということか。寺では安産や幼児の成長を守る子安観音として祭られている。水害の川の中から救い出され、村のお堂から時を経て明治時代、今の寺に安置されたという運命を持つ観音様。大切に守られ、穏やかな笑みを含み、人々の祈りに応えられているその姿に心温まる思いがした。

第16番札所の御朱印を頂き寺を後にした。